

# しんあい

## 季刊

2011年(平成23年)5月31日発行 第78号 ◆編集と発行 しんあい編集部

社会福祉法人  
**多摩同胞会**

〒183-0042 東京都府中市武蔵台1-10

TEL042-367-8801

多摩同胞会のホームページでは、  
ブログを毎日更新しています。

<http://www.tama-dhk.or.jp/>  
をぜひご覧下さい



エレベーターが止まった団地では、お年寄りを抱きかかえて階段をあがりました(泉苑)

### 東日本大震災—いのちと生活をささえる—

2011年3月11日(金)午後2時46分 三陸沖を震源とするマグニチュード9の地震が発生しました。  
その時法人各施設で職員たちがどう行動し、地域のご利用者を守ったかを報告します。

#### 泉苑

- ・特別養護老人ホーム信愛泉苑
- ・高齢者在宅サービスセンター  
泉苑ケアセンター

#### 緑苑

- ・養護老人ホーム信愛寮
- ・特別養護老人ホーム信愛緑苑

#### あさひ苑

- ・府中市立特別養護老人ホームあさひ苑
- ・府中市立あさひ苑  
高齢者在宅サービスセンター

#### 神田事業所

- ・特別養護老人ホームかんだ連雀
- ・かんだ連雀高齢者  
在宅サービスセンター
- ・千代田区立岩本町ほほえみプラザ

#### 児童福祉

- ・子ども家庭支援センターしらとり
- ・母子生活支援施設白鳥寮
- ・母子生活支援施設網代ホームきずな
- ・府中市子ども家庭支援センターたち

### 【臨時号】

### 特集

施設からの報告  
—その時わたしたちは



泉苑

デイサービスは休めない

大きく長い揺れに襲われた泉苑では、訓練通り、素早く利用者・職員の身の安全を確保し、建物の各所が軋む音に恐怖を感じながら揺れの収まりを待ちました。家を心配される方、悠然とされている方とご利用者の反応は様々でしたが、地震情報に耳を傾け、利用者の動きや落下物・転倒に目を配るという息をのむ数分でした。

デイサービスのご利用者の帰宅時、自宅の安全や家族の帰宅等を確認しながら、時間をかけて全員をお送りしました。集合住宅は職員が背負って階段を上りました。

デイやシヨートは独居、日中独居の方の食事や安全、介護者の安心を提供する事業なので、翌日から通常通り実施しました。頻発する余震のたびに活動を一時休止するという状態でしたが、高齢者が一人自宅で過ごす不安を考えれば泉苑に来ていただいているだけで安心でした。また、送迎・入浴・暖房に不可欠の灯油とガソリンの供給が困難となり、暖房を節約する、送迎車輛を減数するなどで凌ぎ、2週間程で給油は通常に戻りましたが、防災の備えと資源の大切さが身にしみました。

ひとたび震災が起これば、泉苑も福祉避難所の役割を担います。今は「職員派遣や被災高齢者受入」等で被災地を支援する体制をとりながら、今回の様々な教訓をもとに、気を緩めることなく、非常事態への具体的な対策の見直しに取り組んでいます。

(特別養護老人ホーム信愛泉苑)

施設長 武田 恵



緑苑

何をにおいても食の確保を

長い強い揺れがおさまった時、いつもなら立ち仕事が多く、小さな地震には気づかない食事係からも状況の報告がありました。ガス遮断弁は作動しませんでした。ちょうど夕食の準備の最中だったので念のため手でガスを遮断し、余震を考慮し、夕食は使い捨て容器と非常食とすることにしました。帰宅困難と対策に当たる職員に対しても弁当の用意をし、片づけが済んだところで遮断弁を開き、ガスの使用可を確認して翌日に備えました。

一夜明けて東北関東地方の被害の大きさに愕然とし、その翌日には福島原発の事故、三月十四日から計画停電が実施されることになりました。食材入荷の不安定、入ってくる食材の安全性状況把握などの課題にとりこんでいます。

安全のため揚げ物をひかえる、入ってくる食材でバランスのよいおいしいものをつくるなど献立の工夫をし、長期に渡ることを想定し、買占めに走ることなく節約対応しています。

安全性については納入業者や各役所に確認し、風評に惑わされないように気を使っています。

お花見御膳には写真のようなランチョンマットが登場し応援の気持ちを表現しました。

(特別養護老人ホーム信愛緑苑)

施設長 市川美智子



行事食もいつもより簡素なものになりました



## 連雀 職員の底力

普段であれば、夜には人の気配がなくなるはずの、かんだ連雀2階デイルームは、この震災当夜から、様相が一変しました。建物の被害状況が一番激しく、余震の影響が最も強い6階フロアの入居者全員が、生活の場を一時的に2階デイルームへ移したためです。エレベーターが緊急停止し使用できなくなっただけでなく、男性職員達が、2階と6階の階段を何度も往復して、車椅子でお年寄りを搬送し、寝具や生活用品を運び込み、2階フロアは、その夜から約2週間、文字通り「避難所」と化しました。

そのような混乱の中、電話もなかなか通じず、自宅や家族のことを心配しつつも、笑顔でお年寄りと接し続けた職員たち。

ひとり暮らしのお年寄りの安否確認を素早く行った高齢者あんしんセンター(地域包括支援センター)の職員たち。日勤から連続して夜勤に入ったフロア職員たち。

1階ホールに会場を移し、不便を感じながらも、ご利用者に安全な活動を提供し続けたデイサービス職員たち。等々。すべての職員がその難局に立ち向かい連携し合い、自らの責任と向き合いました。このチームワークがあれば、これからの困難も乗り切っていける。そんな頼もしさを感じました。非常時体制の2週間で

(千代田区神田高齢者あんしんセンター)長

金井 英明)



## ひあ苑 さ

### その時、地域拠点のあさひ苑は？

その一、揺れが収まったときに緊急の対策会議を招集し、すぐに行うべきこと、今日中にすべきことを確認しました。

その二、入所者98名とデイサービス利用者53名の安全を確保し、地域デイサービス・介護予防推進事業・訪問介護サービスなど在宅サービス利用者とそのサービス提供職員の安否確認を行いました。

その三、ホームヘルパーは予定通り業務遂行し、訪問食事サービスは提供するための調整を行い、通常よりも一時間遅れで配達を終了しました。

その四、地域包括支援センター等で把握している独居・高齢のみ世帯約100名へ電話または訪問し、安否を確認しました。

その五、デイサービスは、ご家族と連絡をとり交通事情などを勘案しながら、臨時のコースを作成し他部署職員も添乗し送迎しました。ガラスが飛散していたため家族が片づけを行っていた家庭や、エレベーターが停止し6階まで抱きかかえて送った方も含め送迎最終は21時をまわりました。

その六、送迎が19時を過ぎた利用者におにぎりや味噌汁の軽食を提供し、同居家族が帰宅困難の2名と不安神経症の独居の方1名を臨時に宿泊していただきました。

(府中市立あさひ苑高齢者

在宅サービスセンター)長

清野 哲男)



きずな

## 「帰宅困難」支援

発災時、非常に大きな揺れを感じ、事務所に戻り、状況の確認を行いました。きずなは4棟の建物があるため、職員にそれぞれの建物の状況と利用者の安全確認を指示しました。大きな揺れのため数名のお母さんと子どもたちが中庭に避難してきました。避難してきた利用者に冷静に対応するように声がけし、さらに全館放送で火元や安全の確認、落ち着いて行動するように呼びかけました。

最初の状況確認では、利用者には怪我人はなく建物も特に問題はありませんでしたが、夕方(17時頃)の余震では、お母さんが子どもを抱えて避難しようとした際に転倒してしまい、額から出血があったため、医療センターに送迎(通院)し手当を受けました。

その後、テレビの情報収集で甚大な被害や電車がストップしている状況が判明したため、利用者の帰宅が遅くなることを想定して、おにぎり等の軽食、非常食や発電機等非常対応の準備をし、帰宅が遅い家庭に軽食を提供しました。

また、都内に勤務する母親が電車不通のため帰宅できないため2名の児童を預かりました。定時制に通う高校生も職員が片道1時間かけて迎えにいきました。19時の時点ではほぼ全員の安否確認がとれ、最後の帰宅者は、夜23時にタクシーで帰ってきました。

(網代ホームきずな施設長 近藤 政晴)



しらとり

## 「子どもたちと保護者」としらとり

施設で今までに感じたこともない大きな揺れを感じました。その時、施設内保育室には乳幼児11名と保育士2人がいました。保育士は、昼寝中の子どもを一ヶ所に集めて、とっさに布団をかぶせて子ども身の安全を守りました。施設内にいた母親は少なく、応援職員2人を出し、館内放送で利用者に対して保育室への避難を呼びかけました。小学生の下校支援や保育所からの迎え等安全第一に支援しました。順次親子が一緒になった世帯から、地震に注意して居室で過ごすように促しました。最後の母親は立川駅で足止めされ戻れず、職員が車で迎えに行き、やっと21時過ぎに帰宅し、全員の安否確認ができました。

また、当日のトワイライト利用予定者は11名でした。電車は止まり、帰宅できるかどうか分からない中、16時トワイライトの迎えの時間になりました。電話がつながらず、すでに母親の迎えで帰宅したり、交通渋滞で帰ってこれない迎車を、しばらく「しらとり」で待った方もいました。最後の利用児を家族にお返しできたのは19時30分頃でした。

「たっち」も含め帰宅できない職員は「しらとり」で泊まり、他の職員は、車通勤の職員が手分けして送迎しました。今後このようなことが起こることを想定して、対応を考えていかなければと感じました。

(白鳥寮施設長

兼子ども家庭支援センター長統括

田口 信一)



## たち

### 屋外退避

地震発生時、行事を実施していた「交流ひろば」には87組185名程の保護者とお子さんがいました。また保育室には4名のお子さんをお預かりし、保健室では乳幼児の「身体測定」が行われていました。揺れを感じると同時に、まず利用者に身の安全の確保を呼びかけ、その後「交流ひろば」「リフレッシェ保育」「総合受付」それぞれに1か所に集まり待機、職員はテレビや「くるる防災センター」の発する情報の把握に努めました。

間もなく建物の損傷や余震による二次被害防止のため、管理事務所が「くるる」の一時閉鎖を決定し「たち」も屋外退避の要請を受けました。府中市による最終判断が下り、市・法人職員とで協力し、直ちに利用者の退避誘導を開始、安全に気を配り複数のお子さんのいらっしやる保護者には地上階まで避難路を職員が付き添うなどの対応を行い、16時前には「ひろば・受付」利用者の退避が終わりました。保護者のお迎えを待つお子さんのみ、保育スタッフと共に引き続き保育室にて待機し、17時前に全員保護者の引き取りとなりました。

ファミリー・サポート・センターでは、予定されていたサポート活動中に、また帰宅困難に陥った依頼会員さんからの急な連絡を受けて、ご自身も地震による不安な状況に身を置きながら対応してください。また提供会員さんがいました。今後の安全なサポートに向けて、詳細な状況の把握に努めている現在です。

(子ども家庭支援センターたち)

支援センター長 片岡 高博)



## 岩本

### 送る利用者・迎える避難者

震災当日ご利用者の皆様にお怪我をされた方は誰もいませんでした。建物の壁にはひび割れや外壁タイルの剥がれ等が数か所できました。当時デイサービスの帰宅時刻が迫っていましたが、エレベーターが停止し動かなくなりました。歩ける方々は職員とともに2階から階段を降りていただき、車イスご利用者は復旧後エレベーターで1階へ降りました。2時間程待機して頂き、安全に自宅までお送り出来ることを確認後、帰宅準備を行いました。

道路は大渋滞で、送迎終了は22時近くでした。ご自宅のエレベーターが動かなくなりました。一人暮らしの方は岩本町ほほえみプラザに緊急宿泊していただき、シヨートステイでは利用延長など対応しました。

一方、交通機関の不通により、近隣のクリニックの患者さん方や会社員が帰宅困難となり、千代田区の了解を得て、一階多目的ホールを待機場所として開放しました。情報収集用にテレビを設置し水分を提供し、マットや毛布を用意しました。

断続的に、近隣から避難についての問合せがあり、「入居ビルが揺れて恐ろしい」との区民の方が避難され、また深夜2時ごろに一ツ橋高校内に入りきれなくなった20名の帰宅困難者を急きよ受入れ、全部で84名の方が岩本町ほほえみプラザで一夜を過ごしました。

今後の対策として、館内の安全策はもとより、怪我人の発生・救護や区民の避難所と帰宅困難者の一時避難所の混合等、様々な課題が明らかになりました。

今回ケアハウス、グループホームを含め全てのご利用者・職員に誰一人怪我も無く無事だったことが何よりの幸いと感じた次第です。

(千代田区立ケアハウスいわもと)

施設長 星川美津子)





事務局  
本部

### 緊急時の情報共有の大切さ

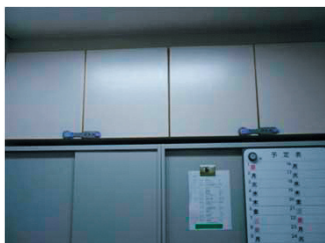
地震直後には各施設から電話により状況報告が入りましたが、しばらくすると電話が不通となってしまったので、法人内グループウェア（サイボウズ）による掲示板での全職員向けの情報発信となりました。

最初の発信は15時48分に常務理事から「通常の調理ができなくなる可能性があるので非常食の準備をしておくこと」という内容でした。各施設長からも、外出中の利用者や在宅サービスを利用してはいる方々の状況報告、帰宅できない職員や夜勤、翌日出勤職員の確認等職員体制の確保に関する連絡が続々と入りました。その後は乾電池を施設間で融通したりと三月二十八日までに施設間での情報交換が60件以上ありました。職員もそういう情報を見ながらある程度は安心して勤務できたのではないかと思います。

三月十四日朝に緊急の幹部会議を開催し、食材の確保や停電対策、緊急時対応等について協議しました。

事務局本部ではソフト勤務を組み、計画停電に対応しました。停電時間に合わせてコンピュータサーバーのシャットダウンと再起動をしなければならぬからです。結局、実際に計画停電が実施されたのは三月十六日の夜間1回のみでしたが、この時、近隣一帯の電気が消え真っ暗な屋上から見た星の瞬きのあまりの美しさに、私たちの生活がいかに電気の便利さに頼りすぎているのかが身に染みてわかりました。

（事務局本部事務長 上野 廣美）



事務所の観音扉に留め具をつきました。

### 編集後記・勤務・泊まり明け・休み 様々なコメント

厨房で夕食の準備中でした。止まらない強い揺れに恐怖を感じながら互いに声を掛け、ガスを止め、避難路を確認しました。

（泉苑 親泊美輝子）

ご利用者のおやつ時間でしたが、防災頭巾姿の皆様と緊迫の待機時間を過しました。テレビの報道を見守りながら…。

（泉苑 小柳忠幸）

訪問介護の援助の為、ビルの7Fにいました。あれだけの地震は初めての経験だったため身動きが取れず、冷静さを取り戻すのに時間がかかりました。日々の訓練の大切さが改めて感じる一日でした。

（かんだ連雀 浅見連也）

最初の揺れのと、避難通路を確保して保育室に応援に行きました。その日は宿直だったので緊張しました。

（しらとり 川崎悠子）

建物がギシギシとなる中、リフレッシュ保育の子どもたちへの対応をしました。子どもたちや迎えに来た保護者の気持ちを聞き受け止めることで、私自身も平常心を保っていたように感じました。

（たっち 嶋田歩）

電車が動かさず私自身「帰宅困難者」となりました。余震が続く中、一晩プラザに泊まり安心して過ごす事ができました。

（岩本 柳英恵）

宿直明けの帰り道、発車待ちの電車の中でした。渋滞の中、迎えに来てくれた母と会えた時、とても安心しました。

（きりな 浦上さわ）

事務所で一人揺れが収まるのを待ちました。仕事を終え帰宅後にテレビを見て、あまりの被害の大きさにただただ驚きました。

（編集長 上野廣美）

一緒に買物に出ていた妹が、怯えていたので、「大丈夫だよ。」と声を掛けながら、地震が収まるのを待ちました。

（あさひ苑 比嘉敦恵）

外出先で地震に遭いましたが、周囲は一瞬でパニックとなりました。実際には、なかなか冷静にはなれないものだなあと痛感しました。

（あさひ苑 伊東裕子）

娘と外出中でした。自宅も携帯電話も通じず、電車も止まり、自宅まで必死に戻りました。

（緑苑 近藤亜也子）

都内避難所で夜を明かしました。歩き続けて呆然としていた時、防寒具を分けてくれた方のやさしさが身にしみました。

（事務局 冠寿枝）

ついに北海道大地震がきたかと下の子どもに覆いかぶさりました。保育園では子どもたちが普通に過ごしており、日ごろの訓練と先生方に感謝しました。

（事務局 青木志乃）

